

2月のコラム～ 映画・ドラマを早送りで観ますか？

昔の古い映画や再放送されている何十年も前のドラマを見ているとホッとすることがあります。ゆったりしているので（笑）

今の映像は、非常に鮮明で、バックに流れる音楽も多様で、セリフが多くテンポも速い。短時間にたくさんの情報が流れてきます。充実していて素晴らしいのですが、たまに古いものを見ると安心して楽しめるのは、それだけ自分の情報処理能力が落ちてきているということなのでしょうね～。

「映画を早送りで観る人たち」という本が話題になっていました。本は読んでいませんが、そういう人が増えているのは確かだと思います。私自身も退屈だと感じたシーンをたまに早送りすることがあります。それぞれ興味の内容や必要なことは異なりますし、実際つまらない部分やまどろっこしいシーンがあるので、そこに時間を割くのはもったいないとも思います。

ただ、作り手からすると情報が少ない時代には、一言一言聞いて、じっくり観てもらえたのに、今は、たくさんの情報を送っているのに、観てもらえない部分が増えるなんて、どうということなのでしょう？情報が多ければ多いほど選択せざるを得ないわけですが、報われないなあと思ってしまいました。

一本のドラマがゆっくり流れ、送られてくる情報が少なければ、一つのセリフに触発され、自分の経験が重なって考えや感情が広がる。その時間に関や、ゆったり感があると自分がドラマの世界に一体化し、想像力、共感性が働く時間が増える。そして勇気づけられたり、感動したりする。映画やドラマの魅力はそんなところにある。そんな気がします。

もちろん作品の意図や完成度、主観的な好き嫌いがあるので、早送りしても十分得られるものがあると思います。無駄が大事とかそういう意味でなく、共通の話題づくりのための情報収集に観るものと自分の感性が育つものは、別物と考えるといいのかなと思いました。

2023年2月 水田かほる